



2009  
*Chorus  
Iiyama*  
with  
*Orchestra  
Ensemble  
Kanazawa*

第14回演奏会

合唱団おおやま

with オーケストラ・アンサンブル金沢

とき／2009年 8月30日(日) 13時30分開場 14時開演 ところ／富山市大山文化会館

主催／富山市・合唱団おおやま・(財)石川県音楽文化振興事業団 共催／北日本新聞社 後援／FMとやま



## 1

混声合唱曲  
「季節へのまなざし」

[1] ひらく

作詞 伊藤 海彦

[2] のびる

作曲 荻久保 和明

[3] みのもる

[4] ゆめみる

## ■曲目解説

昭和53年度芸術祭参加作品として、NHKの委嘱により作詞・作曲され、岩城宏之指揮、東京混声合唱団により放送初演された。

春「ひらく」、夏「のびる」、秋「みのもる」、冬「ゆめみる」。

いずれも、題名をキーワードとして、季節ごとの自然を緻密にみずみずしく、臨場感たっぷりに表現している。しかし、いずれの章でも、これらの目に見える自然を見つめながら、「自分のなか」の「みえない世界」を見つめる自分がある。

「私たちは自然の一部でもあるが、その私たちの内部にもひとつの自然がある。とりまいている外の世界をよく『見る』ことによるのみ、私たちはそれぞれの心の自然——その季節の意味を知ることができるのだと思う。」(伊藤海彦)

そして作曲者は、この「みえない世界」を描くために、「シンコペートされたリズム感」、「パワフルなビート感」を用い、それらが「真に我々の世代にぴったりなものとして」書きたかったと述べており、作曲者はそれを「ビートルズ以降の音楽」と表現している。両作者の意図したずっしりとした質感を感じ取っていただければ幸いである。

(休憩 10分間)

## 2

THE BEATLES  
ビートルズ

作詞・作曲

ジョン・レノン＝ポール・マッカートニー  
(John Lennon & Paul McCartney)

編曲 倉知 竜也

[1] Hey Jude \_\_\_\_\_ ハイ・ジュード

[2] Let It Be \_\_\_\_\_ レット・イット・ビー

[3] Yesterday \_\_\_\_\_ イエスタデイ

[4] A Hard Day's Night \_\_\_\_\_ ア・ハード・デイズ・ナイト

[5] The Long And Winding Road  
\_\_\_\_\_ ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード

## ■曲目解説

みなさまがよくご存知のビートルズの数々の名曲の中から選りすぐりの5曲を、今回の演奏会のために愛知在住の作曲家倉知竜也氏に去年に引き続いて合唱+ピアノ+弦楽オーケストラの編成に編曲していただいた。

ビートルズは、イギリスのリバプールで結成。1962年ラヴ・ミー・ドゥでレコード・デビュー。70年解散。名前のBeatlesは、かぶとむし (beetle) とビート (beat = 拍子) をかけている。アメリカのシングル・ヒット・チャートで20曲、本国イギリスでは17曲が1位となり、ギネス・レコードとなっている (ギネスブック'96)。

1) **ハイ・ジュード** 68年8月発売 (シングルカット。以下同じ)。ジョンの離婚に際し、ジョンの5歳の息子ジュリアンを励ますためにポールが書いた曲。だから、最初は「Hey Jules」というタイトルだった。

2) **レット・イット・ビー** 70年3月発売。イギリスでのビートルズ最後のオリジナル・シングル。

3) **イエスタデイ** 65年9月発売 (米)。イギリスでは当初シングルカットされていない。ある朝目覚めるとこの曲がポールの頭の中に完璧にでき上がっていた。あまりに完璧だったため、ポールは回りの人に既成の曲かどうか聞きまわったとのこと。

4) **ア・ハード・デイズ・ナイト** 64年7月発売。タイトルは、過密スケジュールにリンゴがつぶやいた言葉 (直訳すれば「きつかった日の夜」) がそのまま使われた。ビートルズがロックバンドであることはいわずもがなであるが、今回の5曲の中では唯一のロックとなってしまった。

5) **ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード** 70年5月発売 (米)。ビートルズ最後のオリジナル・シングル。その前月にポールはビートルズからの脱退を公表している。オリビア・ニュートン・ジョンがこの曲をカバーしており (76年アルバム「水の中の妖精」に収録)、今回の編曲では、他の4曲は原曲に忠実な編曲をお願いしたが、この曲のみO・N・ジョン版の編曲をベースに編曲していただいた。

(休憩 10分間)

## 3

ブリテン  
「シンプル・シンフォニー」

(Benjamin Britten Simple Symphony, Op.4)

[第1楽章]

\_\_\_\_\_ 騒がしいブーレ \_\_\_\_\_ Boisterous Bourree

[第2楽章]

\_\_\_\_\_ おどけたピチカート \_\_\_\_\_ Playful Pizzicato

[第3楽章]

\_\_\_\_\_ 感傷的なサラバンド \_\_\_\_\_ Sentimental Saraband

[第4楽章]

\_\_\_\_\_ ふざけた終曲 \_\_\_\_\_ Frolicsome Finale

## ■曲目解説

現代イギリス最大の作曲家ブリテン (1913~1976) の初期の作品 (1934)。ブリテン20歳の時の作品だが、さらに驚くべきことは、自身の9歳から12歳までの作曲スケッチをもとに曲を作っていること。ブリテンの早熟ぶりを示す名作である。

「シンプル・シンフォニー」を直訳すると「単純な交響曲」となるが、交響曲というよりは、新古典主義的な雰囲気を持つ、組曲のような感じの作品である。曲名と各楽章の標題のとおり、古典的でシンプルな中に、いかにもイギリス人らしいユーモアとウィットに富んだ曲である。



# スティーヴ・ドブロゴス 合唱と弦楽オーケストラと ピアノのための「ミサ曲」

(Steve Dobrogosz "MASS" for Choir, String Orchestra and Piano)

## [1] Introitus

——入祭唱

## [2] Kyrie

——キリエ・エレイソン  
——主よ、憐れみたまえ

## [3] Gloria

——グロリア・イン・エクテルシス・デーオ  
——いと高きところには神に栄光あれ

## [4] Credo

——クレド・イン・ウナム・デウム・パトリム・オムニポテンテム  
——我は信ず、唯一の神、全能の父を

## [5] Sanctus

——サンクトゥス・ドミヌス・デウス・サバオト  
——聖なるかな、万軍の神なる主

## [6] Agnus Dei

——アニウス・デイ、クイ・トリス・ベッカータ・ムンディ  
——神の子羊、世の罪を除きたもう主よ

### ■曲目解説

ドブロゴスは1956年アメリカ生まれでスウェーデン在住のジャズピアニスト。合唱曲を始めとして、ジャズテイストの器楽曲や声楽曲をたくさん作曲している。

ミサ曲 (Massマス) とはキリエから始まるラテン語のミサ典礼文に曲をつけて歌う音楽で、古来より、実際に教会のミサで歌われる曲から演奏会用の曲まで数多く作曲されてきた。ドブロゴスは、このミサ典礼文に得意のジャズテイストの音楽をつけて、たいへん現代的で美しいミサ曲に仕上げている。1992年作。

**1) 入祭唱** 合唱のない短い曲だが、アニウス・デイのテーマで始まり、サンクトゥスのテーマが入るなど、後に続く曲を予感させる前奏曲となっている。

**2) キリエ** はかなげできらめきを感じさせるテーマと力強い意思を感じさせるテーマが繰り返し歌われる。8分の7拍子が多用され、よく拍子が変わるが、これにより祈りの言葉の繰り返しに強い願いが込められていると感じさせる。

**3) グロリア** 単旋律、ゆったりしたテンポで、神をたたえる言葉が語られる。

**4) クレド** 転調の多い、激しく不安げな音楽で、信仰告白とキリストの生涯が語られる。冒頭の激しいピアノが印象的。

**5) サンクトゥス** 前半のリズミカルで激しい音楽に対し、後半は明るく天上的なメロディが繰り返され、キリエのフレーズが挿入されるなど、神をたたえる高揚感で満ちあふれた曲となる。

**6) アニウス・デイ** 4分の5拍子と4分の4拍子がよく入れ替わる。ゆったりとして平和な気分になり、あるいは深い祈りを感じさせるメロディが繰り返され、静かに曲を閉じる。



Kazufumi Yamashita,  
Conductor

山下 一史 (指揮)

1977年桐朋学園高校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、(故)森正の各氏に師事。

1982年「第17回民音指揮コンクール」で奨励賞を受賞。

1984年桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学、1986年デンマークで開かれたニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝する。

1985年12月からヘルベルト・フォン・カラヤンの亡くなるまで彼のアシスタントをつとめ、86年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会で、急遽、急病のカラヤンの代役として、ジーンズ姿のまま「第9」を指揮し、話題となった。その成功以来、ザルツブルク・フینگステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約、以後、デンマーク放送交響楽団、ライナス交響楽団、ソングーランド交響楽団などを指揮、着実にヨーロッパでの実績を重ね、1993年から1998年までヘルシンボリ交響楽団(スウェーデン)の首席客演指揮者をつとめた。1998、1999年と連続して、スウェーデンの名門、マルメ交響楽団の定期公演、1999年3月にはオーランド交響楽団(ニュージージーランド)の定期公演に出演した。

日本国内では1988年「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮してデビューを飾り、以後、国内の主要オーケストラに定期的に出演し、好評を得ている。NHK交響楽団の副指揮者(88年~95年)、オーケストラ・アンサンブル金沢のプリンシパル・ゲスト・コンダクター(91年~93年)、九州交響楽団の常任指揮者(96年~99年)をつとめた。現代作品の演奏にも定評があり、1996年日本音楽コンクール作曲部門の指揮において審査員特別賞を受賞した。大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウスでは2001年夏のモーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》公演の成功を機に、2002年4月よりオペラハウス管弦楽団常任指揮者に選ばれ、同年夏のモーツァルト《魔笛》公演、2003年にはレオンカヴァルロ《道化師》、モーツァルト《フィガロの結婚》、松村禎三《沈黙》、2004年、モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》、ベルク《ヴォツェック》、2005年、モーツァルト《コシ・ファン・トッテ》、2006年、モーツァルト《魔笛》公演はそれぞれ高い評価を得た。また、2005年秋には、新国立劇場より松村禎三《沈黙》公演が招待され、東京の音楽界にも衝撃を与えた。

2006年4月からは仙台フィルハーモニー管弦楽団より指揮者として迎えられ、オペラ、オーケストラの両面においてますます注目を浴びている。

2009年より仙台フィルの正指揮者就任。



Kaori Shimizu,  
Pianist

清水 香里 (ピアノ)

桐朋学園音楽学部演奏学科ピアノ専攻を卒業後、米テキサスクリスチャン大学大学院へ留学。帰国後、「北日本新聞ホール推薦演奏家Vol.11清水香里ピアノリサイタル」「北陸VISAカードX'mas清水香里ピアノリサイタル」等、ソリストとして幅広く演奏活動を展開。また、富山市民文化事業団主催「市民オペラ・アイダ2001」「お小夜」「チョン・ミョンファン指揮オペラ「カルメン」「ラ・ボエーム」」「オーケストラで遊ぼう!」「音楽で遊ぼう!」、富山県合唱連盟主催「第九~歓喜の夕べ」、糸魚川地域ニュー里創プラン「歌劇・奴奈川姫」、富山県高岡文化ホール主催「フィガロの結婚」等、県内外の劇場が制作するオペラやミュージカルのコレペイトウやソリストを務める。また、伴奏者・室内楽奏者としても活躍。その活躍は多岐にわたり、富山の音楽シーンに欠かせない存在である。現在、桐朋学園子供のための音楽教室講師、富山県立高岡西高校非常勤講師、ピアノ教室主宰。



# Chorus Ohyama 合唱団おおやま



合唱団おおやまでは、  
団員を募集しています。  
随時、練習の見学を歓迎します。

95年8月に旧大山町民を中心に結成。96年8月に第1回の「夏のメサイア」を公演。  
以来、毎年夏にオーケストラとの共演による公演を重ね、今回が14回目の演奏会となる。  
オーケストラ・アンサンブル金沢とは12回目の共演。  
富山市大山文化会館で、毎週水曜日夜、練習を行っている。

お問合せは富山市大山文化会館  
(076-483-0001)まで。  
<http://ww2.ctt.ne.jp/~ohyama/>

## ソプラノ

岩竹 幸絵 / 岩竹 李奈 / 岡本 紀子 / 岡本 洋子 / 桶谷 桃子 / 高橋 真由美 / 谷崎 キミ子  
谷崎 千鶴 / 谷崎 千紗 / 千葉 多恵 / 原田 美里 / 松井 千代美 / 宮原 百合子 / 山崎 忍  
山崎 陽子

## アルト

麻島 利子 / 稲垣 聖子 / 井上 澄子 / 桶谷 道子 / 奥野 知子 / 片山 美富里 / 木村 まゆみ  
小泉 康子 / 高木 茂子 / 筒井 真理子 / 寺林 美穂子 / 仲井 葉子 / 中川 律子 / 長原 啓子  
平崎 康子 / 村椿 伸子 / RICAFRENTE JENNIFER (ジェニファ)

## テノール

井内 学 / 大崎 晴夫 / 澤崎 義隆 / 谷崎 修一 / 三羽 康嗣 / 山崎 勝幸

## バス

窪田 英史 / 小塩 靖 / 野入 豊光 / 野尻 芳邦 / 松井 輝 / 丸山 隆



## Orchestra Ensemble Kanazawa

# オーケストラ・アンサンブル金沢

1988年、世界的指揮者、岩城宏之が創設音楽監督(現在、永久名誉音楽監督)を務め、多くの外国人を含む40名からなる日本最初のプロの室内オーケストラとして石川県と金沢市が設立。2001年金沢駅前に開館した石川県立音楽堂を本拠地とし、世界的アーティストとの共演による年20回の定期公演や、北陸、東京、大阪、名古屋での定期公演など年間約110公演を行っている。これまでに行ったヨーロッパ、オーストラリア、アジアを含む海外公演は13回に及び。設立時よりコンポーザー・イン・レジデンスを実施、多くの委嘱作品を初演、CD化している。ジュニアの指導、学生との共演、邦楽との共同制作などオーケストラ育成・普及活動にも積極的に取り組んでいる。メジャーレーベルより70枚を超えるCDを発売。07年1月より、指揮者の井上道義を新音楽監督に迎え、新たな活動を展開している。とりわけ08年から開催されている音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ金沢」においては中心的役割を担っている。

## 合唱指揮 内山 太一

武蔵野音楽大学声楽科卒 ミュンヘン  
国立音楽大学声楽科卒。シューベルト  
の三大歌曲集「美しき水車小屋の娘」「冬  
の旅」「白鳥の歌」等ドイツ歌曲のリサ  
イタルを数多く開催。藤原歌劇団公園  
のオペラやメサイア、ベートーベン第九  
等数多くのコンサートに出演。NHKF  
M等ラジオ、テレビにも出演。

1993年再度一年間ドイツに留学。こ  
れを機に故郷上市を拠点に演奏活動を  
展開している。合唱団おおやまの他、  
入善混声合唱団、男声合唱団「ジョ  
イフル・フレンズ」、黒部第九を歌う会、  
上市町子供の城児童合唱団、大地の  
会女声合唱団等の指導。

元武蔵野音楽大学声楽科講師 元洗  
足学園音楽短期大学声楽科講師、声  
楽研究グループ 大地の会主宰